

声を届ける回路

Scientists and/as Citizens



Beid . All Rights Reserved

「自分は研究者だから政治はわからない」が、「政治家や文科省の学術政策が間違っている」という発言は大学人からよく聞かれる台詞である。しかし、逆に自分の専門分野について無知な人から、「あなたの研究は間違っている」と発言をされた場合に、平静を保っていられる研究者はどの程度いるだろうか。

大学と学術を取り巻く環境の悪化はとどまる気配がない。大学も学術も社会に埋め込まれている存在であるのだから、その環境を変える手続きは政治である。しかし、大学人の多くは政治を忌避、あるいは無視しているのが現状だろう。ただ不平不満を唱えるだけで終わるのではなく、正当な手続きで学術や大学をとりまく環境を変え、研究を社会に還元するために、われわれはまず学ぶことから始めねばならない。そこで本シンポジウムでは、講演者にそれぞれの視点から、学術と政治について講演頂き、政治が学術と大学にもたらせること、学術と大学が社会に貢献できることについて理解を深めたい。パネルディスカッションでは、研究者と政治をつなぐ回路と、社会と大学をつなぐ回路を機能させるために、われわれにできることを議論したい。

第1部 講演 13:00-15:00



大草 芳江
(NPO法人natural science理事)
知的好奇心がもたらす
心豊かな社会の創造にむけて
～科学・技術教育の実践と今後の活動方針～



標葉 隆馬
(大阪大学・社会技術共創研究センター准教授)
科学技術・学術研究の
社会的基盤と科学技術政策



川口 康平
(香港科技大学ビジネススクールAssistant Professor)
大学改革の『失敗』?
:どう検証すればよいのか

第2部 パネルディスカッション 15:15-16:45

「回路をつなぐために」

パネリスト:

大草芳江、標葉隆馬、川口康平、当真賢二(FRIS准教授)

ファシリテーター:

田村光平(FRIS助教)

2020. 11 / 7 Sat.
13:00-16:45

開催方法：オンライン会議システム (Zoom)

Joint Workshop 参加登録はこちらから
<https://forms.gle/HwC7gjW9AwQ7iLTt7>

